

# 横浜BUNTAI

YOKOHAMA BUNTAI

No. 12-090-2025作成

新築  
観覧場

発注者	株式会社YOKOHAMA文体	カテゴリー	A. 環境配慮デザイン	B. 省エネ・省CO <sub>2</sub> 技術	C. 各種制度活用	D. 評価技術/FB
設計・監理	梓設計・アーキボックス・大成建設 設計共同企業体	E. リニューアル	F. 長寿命化	G. 建物基本性能確保	H. 生産・施工との連携	
施工	大成建設・渡邊組建設共同企業体	I. 周辺・地域への配慮	J. 生物多様性	K. その他		

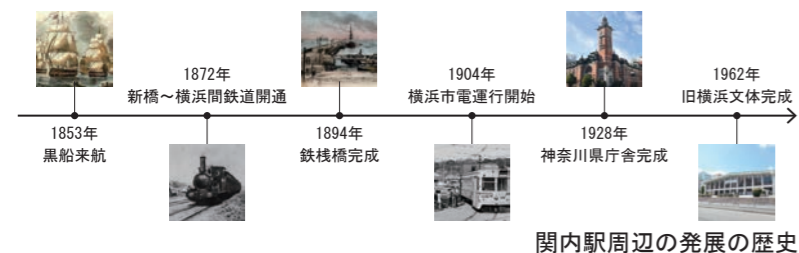
## まちづくりを牽引するシンボリックアリーナ



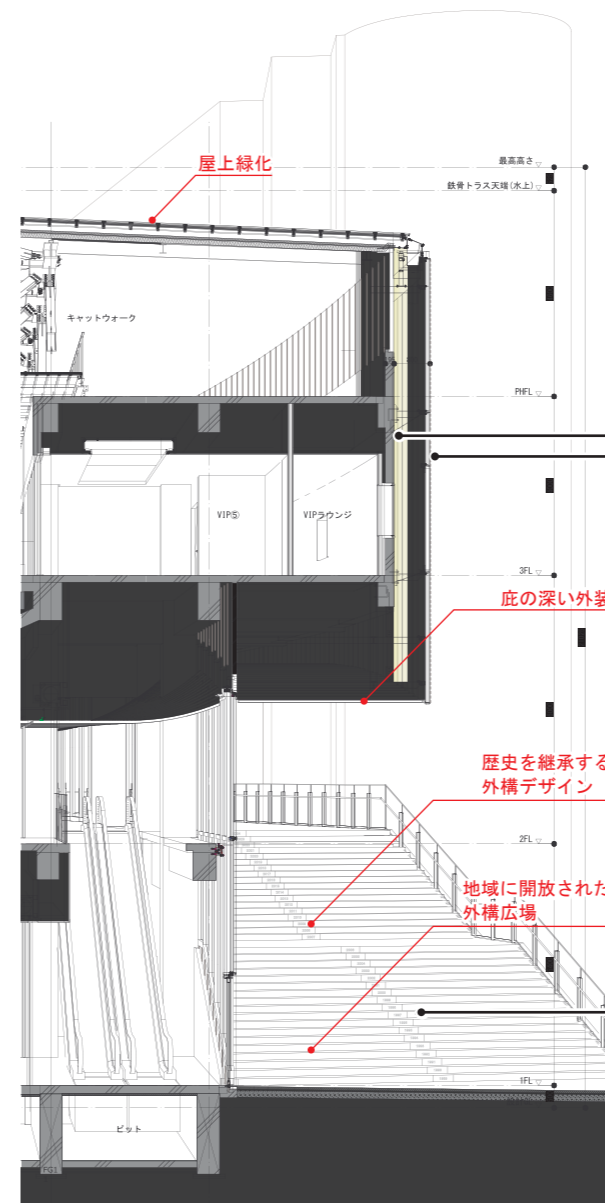
横浜の浜風を受けてたなびく帆をイメージしたファサード

### 未来に向けたまちづくりを牽引する横浜BUNTAI

黒船来航をきっかけとして目覚ましい発展を遂げた関内駅周辺地区のまちづくりのリーディングプロジェクトとして、市民利用はもとより、大規模な大会やコンサートなどの興行利用にも対応したアリーナ施設を整備した。スポーツ・エンタメの新たな核とし、更なる賑わい創出の核とすることを目的としている。

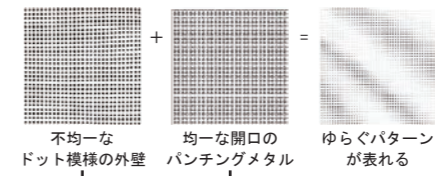


関内駅周辺の賑わい創出の核となる横浜BUNTAI



外装・外構断面図

帆のゆらぎを表現したシンボリックなファサード  
船をきっかけとして発展した当エリアの新たな船出を願い、横浜の浜風を受けて進む船の「帆」がたなびく様子をイメージした流線型のデザインとした。不均一なドット模様の外壁と、均一な開口のパンチングメタルを重ねた2層構造でモアレ効果を引き起こし、見る角度によって帆のゆらぎ模様に変化するシンボリックな外観としている。



たなびく帆をイメージした流線型



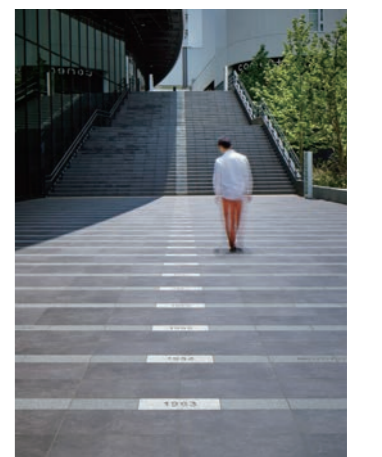
姿を変える照明計画

### この地で流れた歴史を感じさせる「時のデザイン」

地域に開放された外構広場には、横浜市電で使われていた敷石を活用し、旧文体閉館から横浜BUNTAI開館までの歴史を刻み込んだ年表としている。



横浜市電で使用されていた敷石(白御影石)を活用した年表



### 近隣施設との連携

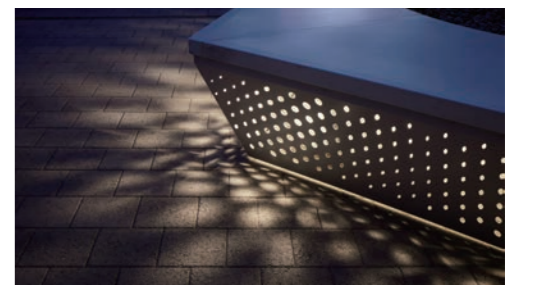
曲面の平面形状によって人を引き込むと同時に、イベントを連携開催する横浜武道館への人の流れを創出。また、横浜武道館との間にシンボルツリーとベンチを設け、滞留できる空間としている。



近隣施設への動線の創出



イベント連携する横浜武道館との間に設置したベンチ



### 設計担当者

建築：\*永廣正邦、\*石成雅人、\*\*鈴木浩二、\*\*長谷部友香、\*\*\*奥石秀人、\*\*\*横地哲哉、\*\*\*倉持翔太、\*\*\*高山武、\*\*\*鈴木彰信、\*\*\*久保順二  
構造：\*\*\*有山伸之、\*\*\*御所園武/設備：\*\*\*渡辺睦典、\*\*\*西村英俊、\*\*\*矢田達也  
外装照明デザイン監修：ライトデザイン/ランドスケープ・ファサードモアレグラフィックデザイン監修：スタジオゲンクマガイ/サインデザイン監修：氏デザイン  
\*梓設計、\*\*アーキボックス、\*\*\*大成建設株式会社一級建築士事務所

### 主要な採用技術(CASBEE準拠)

- Q3. 1. 生物環境の保全と創出(外構緑化、屋上緑化)
- Q3. 2. まちなみ・景観への配慮(新たなシンボルの形成、歴史を継承する外構デザイン)
- Q3. 3. 地域性・アメニティへの配慮(地域に開放された外構広場、近隣施設との連携を促進する動線計画、外構ベンチ)
- LR1. 1. 建物外皮の熱負荷抑制(外壁・ガラスの高断熱化、庇の深い外装)
- LR3. 1. 地球温暖化への配慮(LCCO<sub>2</sub>72%削減、BEMX、雨水利用、太陽光発電、人検知センサーによる照明制御)
- LR3. 3. 周辺環境への配慮(騒音対策)

建物データ	所在地	神奈川県横浜市	省エネルギー性能	BEI値	0.62 %	CASBEE評価	Sランク	BEE=3.8
	竣工年	2024年		BPI値	0.67 %		BEE=3.8	2017年度版 第三者認証
	敷地面積	10,057㎡		LCCO <sub>2</sub> 削減	71 %			
	延床面積	15,072㎡						
	構造	RC造 一部 鉄骨造						
	階数	地上3階						

